

# 小布施町 ウォーキング普及

# 健康づくりでタッグ

## 豊富な温泉を活用 高山村



腕を大きく振るなどして歩く「パワーウォーキング」の普及に取り組み小布施町と、豊富な温泉に恵まれた高山村が、協力して住民の健康づくりに取り組むとしてしている。健康に配慮した食事を取り入れ、将来的には両町村へ外から人を呼び込む「交流産業」に発展させる狙いもある。二十三日に機運を盛り上げるシンポジウムを同村内で開く。

### 23日にシンポ

## 「交流産業」へ発展期待も

「歩くだけでは魅力がない」として、楽しめる要素を探していた小布施町は八つの温泉がある高山村に着目し、昨夏ごろから同村側に働き掛けてきた。

平たんな農村地帯で博物館などの文化施設も数多く、自宅庭を開放する「オープンガーデン」といった花のまちづくりを進める小布施町。一方、温泉だけでなく笠岳（二、〇七六メートル）をはじめ南志賀の山岳地も抱える高山村。昨年十一月には、パワーウォーキングを提唱したドイツ人から「両町村の組み合わせは魅力がある」とのお墨付きももらった。

双方の魅力を生かし、ウォーキングによる「運動」と、温泉や森林浴などによる「休養」、地元産食材も生かした「栄養」の三要素について、小布施町と高山村で広げている「パワーウォーキング」

介する企画展が、同博物館で開かれている。旧柵小学校を改築し、学校の雰囲気が残るユニークな博物館が完成するまでの舞台裏を垣間見ることが出来る。

戸隠地質化石博物館によると、開館までには約五十人の市民ボランティアも含め、常設展準備だけでも二百人以上クジラの全身骨格像や重さ約二トと推定される化石を含む岩塊をボランティアと一緒に設置した作業の写真を、モニター画面に順番に映し出している。何度も校正した跡が残る展示解説文の原稿や、玄関をガラス張りにする案があったことを示す模型も並べた。

代さん(44)と夫の良幸さん(45)が十八日、環境問題を考える「小さな環境サミット」の初回を自宅の助産院で開いた。環境エネルギーなどに詳しい富田貴史さん(33)＝京都市＝を招き、小中学生も一緒に話を話し合った。写真。地元の小学校四年生から中



まれた飯綱町から環境問題について話し合う輪を広げたいと企画。琴代さんは「何げなく使っている電気にも知らないことがたくさんあった。知ろうとすることが大切と思った」。今回の内容や開催時期は未定だが、「子どもも一緒に考える場になるよう続けた」と話している。

住民が楽しみながら自発的に取り組める仕組みを整えることで両町村は合意。今秋には、秋の味覚を楽しみ、温泉にも入るパワーウォーキングイベント（小布施町健康福祉部門）を開く予定だ。

二十三日のシンポは、午後一時半から同村健康福祉総合センターで開く。パワーウォーキングを国内で広げている古賀和仁さん、休養の面から東海大医学部の保坂隆教授、東京・日本橋で産直野菜の洋食屋を経営する村上由紀さんを招くほか、グリーンツーリズム研究の第一人者の青木辰司・東洋大社会学部教授もパネリストに招く。

「まず住民が心身共にリフレッシュできるような地域にしたい」と小布施町。高山村は「小布施や高山に来たら元気になれる地域づくりを進めたい」としている。問い合わせは小布施町役場(8026・247・3111)へ。

### 県内在住のドラマーら3人参加

## アシッド・ジャズバンドがライブ

東筑摩郡生坂村在住のドラマー表直志さん(45)が率いるバンド「ブルース・パワー」のライブが23日午後8時、長野市大門町のレストラン「れんが館」で開かれる。ビートが激しい、アシッド・ジャズやジャズ・ファンクと呼ばれる分野の音楽で、バンドの5人のうち表さんら3人が県内在住だ。

表さんは、スイスで開くモントルー・ジャズフェスティバルなど、国内外のコンサートに出演して

いる。より幅のある音楽表現をしたに東京から生坂村に移住、拠点にした

バンドは、ドラム、ギター、ベース、ボーカルの5人編成。信州新町出身のKOHKIさん(24)がギターを拒内在住で作詞などもするティム・ジがボーカルだ。オリジナル曲を中心に

表さんは「県内ではなかなか聞けなだと思う。本気に楽器を弾いている。KOHKIさんも「質の高い演奏したい」と張り切っている。2500円(飲み)。問い合わせは、れんが館(8026・

23日 長野市で



ライブに向け練習するドラマーの表さん(右)とギターのKOHKIさん(中央)